

札幌建設協会

# 100周年へ新たな一歩

## 若年者ら担い手確保も

札幌建設協会(82社)は18日、札幌クランドホテルで定時総会を開いた。来年の創立100周年に向けて新たな一歩を踏み出すとともに、若年者らの担い手確保に積極的に取り組み、入札契約制度改革の協議も継続して進める方針を決議した。

札幌建設協は、前身の札幌土木建築請負業組合が1916(大正5)年10月20日に発足。16年に100周年を迎えることか

ら、同年5月30日には記念式典を開く。

記念事業としては、高校生が建設現場の風景を写真に収めるフォトコンテストや、少年野球チームへの石こうボード廃材を再生したフラインの引き粉寄贈を計画。1世紀を節目とする「行動宣言」の策定も進める。

総会の冒頭で岩田圭剛会長は「先人の労苦を振り返り、新たな歴史を踏み出す節目にしたい」と抱負を述べた。

建設業の環境をめぐっては「担い手3法の改正で運用指針が決定した。

企業が適正な利潤を確保できるよう発注者の具体的な取り組みが始まったが、ダンピング受注の排除や労働環境の改善など、受注者の責務を果たす必要がある」と宣言した。

直面する担い手確保については「短期間で離職する若者が多く、定着化も大きな課題。引き続き専門工事業など関係団体

100周年などへの抱負を述べる岩田会長



と連携し、建設業のPRやイメージアップに努める」と話した。

札幌市長選で当選した秋元克広市長とは「安全・安心の確保やまちづくりのパートナーとして良好な関係を構築されるよう期待したい」と述べ、入札契約制度を話し合う定期協議を継続させて新たな成果を出したいと強調した。

調した。

札幌市が策定する地域強靱(きょうじん)化計画に対しては、ワーキンググループを設置して民間サイドから提言する方針も示した。

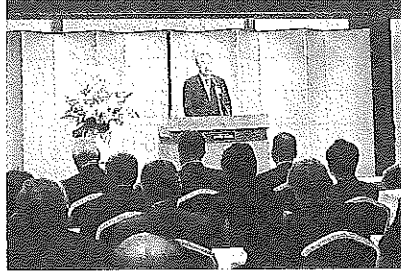
総会後、北海道開発局の岡部和憲局長が「北海道の現状とポテンシャル」と題して開発政策について講演した。

札幌協が定時総会開催

予算措置の必要性示す

来年5月30日に100周年式典

一般社団法人札幌建設業協会  
北海道の現状とポテンシャルについて  
講師 国土交通省北海道開発局長 岡部 和忍氏



一般社団法人札幌建設業協会(岩田圭剛会長)は十八日、札幌グランドホテルで二十七年度定時総会を開催した。議事では、二十六年決算報告について審議し承認したほか、実行委員会の報告で来年の五月三十日に札幌グランドホテルで協会創立百周年記念式典等を開催することを明らかにした。岩田会長はあいさつで、

本年度の開発予算を踏まえ、「微増で補正も限定的なものになった。秋以降を危惧している。予算措置が必要だ」と述べ、関係機関に働きかけていく考えを示した。

岩田会長はあいさつで品確法改正後の発注者の統一ルールとなる運用方針決定を受け、業界としてもダンピング受注の排除や労働環境の改善などに取り組んでいく必要性を強調。本年度

の開発予算については微増にとどまったことから、秋以降を危惧している。必要な予算措置を働きかけていきたい」との認識を示した。

また、札幌市長選を終え新市長と良好な関係を構築されるよう期待したいとしたほか、本年度に市が策定する地域強靱化計画に民間サイドからも提言していくと説明。協会の札幌部会にワーキンググループを設置し、建設業の果たすべき役割を検討していくと示した。

議事では二十六年度決算報告を審議し、原案どおり承認。このほか、札幌建設業協会創立百周年記念事業の検討状況について、実行委員会が同記念式典等を来年の五月三十日に開催すると説明した。約二千万円の予算を見込み、式典・講演会のほか記念誌発行、機運醸成・社会貢献活動を検討している内容も報告された。

総会後の記念講演会では、岡部和憲開発局長が「北海道の現状とポテンシャル」を演題に講演を行った。

# 企業と業界の発展に尽力

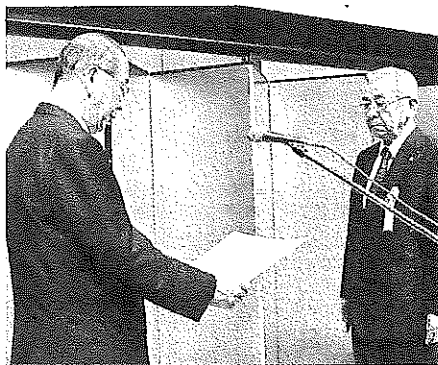
## 27年度会長表彰式

### 58人の功績たたえ

一般社団法人札幌建設業協会(岩田圭剛会長)は十八日、札幌グランドホテルで二十七年度会長表彰式を執り行った。写真。受賞の栄に浴した五十八人の功績をたたえ、岩田会長が表彰状と記念品を贈呈。長年にわたり、企業と業界の発展に尽力してきた功をねぎらった。

本年度の受賞者は、表彰

規程三条四号に該当する会員企業役員七人、五条の会員企業職員五十一人の計五十八人。受賞者は四月八日付二面。三条四号の受賞者七人、五条の受賞者代表の岩田地崎建設(株)の東藤稔氏が登壇し、岩田会長から表彰状と記念品を受け取った。岩田会長が祝辞に立ち、「バブル崩壊後、建設業を



取り巻く環境が目まぐるしく変わる中で、皆さんは研鑽に努め企業活動の中心的な役割を果たしてきた」と評価。今後とも業界発展の

「自然災害に対応する建設業の役割は大きい。幸せに暮らすことのできる国土形成のため一層精進していきたい」と決意を新たにした。

ため、「夢を託せる産業であるよう、この受賞を契機に皆さんの経験と技術の後継に引き継いでほしい」と、協力を求めた。受賞者を代表して、草野作工(株)の井口雅幸取締役副社長が

## 役員功労など58人に荣誉 15年度会長表彰の授賞式

札幌建協



札幌建設業協会は18日、札幌グランドホテルで2015年度会長表彰の授賞式を開いた。岩田圭剛会長が受賞者に賞状と記念品を手渡し、これまでの功績をたたえた。

同表彰は1969年に制定した。今回は企業役員(表彰規定3条4号)の功労者7社7人と永年勤続の企業職員(同5条)21社

51人の計58人が選ばれた。岩田会長は役員功労の

7人と永年職員を代表して岩田地崎建設(本社・札幌市中央区)の東藤稔建築課工事長に賞状と記念品を手渡した。

岩田会長は祝辞で「建設業は本来魅力ある産業だが、公共事業の減少などでそれが薄れてきた。だが官民一体の人材育成も始まっている。技術や経験を後輩に引き継ぎ、業界の発展に力添えをしてほしい」と今後の活躍に期待を寄せた。

受賞者を代表して草野作工(同・江別)の井口雅幸副社長は「建設業は社会資本整備とともに、自然災害に迅速に対応するという大きな役割がある。これまで以上に心を引き締め、幸せに暮らせる国土の形成に努めたい」と謝辞を述べた。